

# 音楽科学習指導案

安芸高田市立八千代中学校

教諭 田邊 美佳

1 概要 日時:平成 16 年 10 月 14 日 第 5 時限目 13:30 ~ 14:20

対象:安芸高田市立八千代中学校 第 2 学年 38 名

場所:安芸高田市立八千代中学校 特別教室棟2階 音楽室

2 題材名 「知っていて知らない音・音楽のヒミツ」 ~ 気づきから実感へ ~

3 題材の指導目標

社会と音や音楽の結び付きに関心をもち、意欲的に音楽活動に取り組むことができるようにする。  
混声合唱の響きを知覚し、そのよさを感じ取り、声の表現方法や発声法を工夫できるようにする。  
歌詞の内容や曲想を感じ取り、イメージを拓けながら、楽曲にふさわしい歌い方ができるようにする。

4 題材設定の趣旨

(1) 題材観

本題材は、鑑賞活動と合唱活動を相互に組み合わせた表現活動と特別活動と関連を図った社会に参加するという体験活動を通して、社会と音楽のかかわりを新たに認識し、生涯にわたって様々な音楽を受け入れようとする音楽に対する感性と主体的な自己表現能力を高めることをねらいとして設定した。

私たちの暮らしの中には、しっかりと生活に根付いている音楽が多くあり、その中には、いわゆる有名なクラシック音楽も少なくない。生徒は、それらの楽曲の題名や作曲者等を理解していなかったり、それらのよさや美しさを感じ取っていないかたりしていても、「聞いたことがある。」という経験はある。

授業において、それら生徒が知っていると思われるクラシック音楽を取り扱う際、生徒がもっている楽曲そのものに付随する情報を含めた聴取経験を生かす指導の展開は欠かせない。その一方、そこでは、生徒がその音楽の本質を実感できるよう楽曲に対する音楽に付加された情報の影響、換言すれば、与えられたイメージから脱却させる活動も必要となる。

そのために、本題材では、社会の様々な場面の音や音楽を紹介し、その意味に気付かせることを基層として、L.V.ベートーヴェンの「交響曲第九番合唱付き 第4楽章」を取り上げ、実際に合唱活動として取り組むことにした。さらに、実際に社会で行われているイベントに自ら参加するという体験をさせるために、特別活動では、RCCの主催する「第九ひろしま 2004」への参加を設定する。また、その特別活動に併せて音楽科では、本題材後の題材、「第九、とっておきの話。~ ベートーヴェンの生涯と音楽 ~」(全2時間)を展開し、音楽がもつ多様な価値についてもアプローチさせる。それらを通して、音楽に対する憧れや向上心などをもたせながら、多様な音楽活動を体験させ、音楽の特徴を実感させることを目標として展開していきたい。

(2) 生徒観

本学級は、第1学年時から意欲的に合唱活動に取り組んできている。本年度は、1学期の校内合唱祭において最優秀賞を受賞し、NHK全国学校音楽コンクール県大会に出場した。このように歌唱に対する生徒の意欲は高く、技能面においても向上している。また、1学期末に行ったアンケートでは、8割以上の生徒が音楽の授業を「好き」と答え、半数以上の生徒が、音楽が「得意」と答えている。しかし、自分から課題をみつけ取り組む姿勢は低く、自主性が必要とされる活動は苦手な実態がみられる。女子が積極的なため、男子がやや消極的な印象ではあるが、「自分の意見が言いやすい雰囲気である」と約7割の生徒が感じており、この雰囲気を損なわずに様々な活動を組み込んでいけば、最高学年となる来年度には、さらなる自主性がはぐまれ、音楽の諸能力の向上が図れると期待している。

(3) 指導観

指導に当たっては、鑑賞活動と合唱活動を組み合わせることにより、自己の表現意欲をはぐみ、表現力を高めることができるようにする。

具体的には、最終目標である「第九ひろしま2004」への参加を目標とさせ、生徒が本物のオーケストラを身近で感じ、ソリストの立ち姿・素晴らしい歌声を聴き、自らも合唱団の一員として同じステージをつくり上げていく過程を経て、自らの音楽学習の糧となる体験をさせる。鑑賞活動では、暮らしの中の音楽を取り上げることからはじめ、自分の周りの音や音楽に気付かせたい。また、オーケストラ伴奏の曲を自らが歌うことにより、「第九」第4楽章全体をより身近に鑑賞し、作曲者の意図や想いを汲んだ表現活動へとつなげたい。

また、表現活動では、歌唱活動時に身に付けた技能を合唱活動へ生かし、まずは移調した「歓喜の歌」で充実感を得て、原曲に挑む。プロの合唱団でも難曲であるため、細部にこだわらず、むしろ周りの合唱経験者の取り組む様子やソリストの歌唱力、指揮者やオーケストラの醍醐味を感じ取らせたい。

具体的には、ドイツ語ディクッションと各パートの音取りを音楽担当者が行い、全体指導は外部指導者にも

協力してもらいながら、指導を進めていきたい。

## 5 主な教材

### (1) 教材名

- 「夢の世界を」(中学生の音楽 2 3 上 教科書 教育芸術社 p.4-5) 英龍明子作詞・橋本祥路作曲
- 「翼をください」(中学生の音楽 2 教科書 音楽之友社 p.34-35) 山上路夫作詞・村井邦彦作曲・若松正司編曲
- 「夏の思い出」(中学生の音楽 2 3 上 教科書 教育芸術社 p.26-27) 江間章子作詞・中田喜直作曲
- 「浜辺の歌」(中学生の音楽 2 3 上 教科書 教育芸術社 p.24-25) 林古溪作詞・成田為三作曲
- 「サンタ ルチア」(中学生の音楽 2 3 上 教科書 教育芸術社 p.14-15) ナポリ民謡・川崎祥悦編曲
- 「君に伝えたい」(新・中学生のクラス合唱曲集 希望の光の中; 音楽之友社 p.26-30) 山崎朋子作詞・作曲
- 「大地讃頌」(中学生の音楽 2 3 下 教科書 教育芸術社 p.64-65)
- 「歓喜の歌(交響曲第九番「合唱付き」から)」  
(中学生の音楽 2 3 上 教科書 教育芸術社 p.46-47) シラー作詞・ベートヴェン作曲・川崎祥悦編曲

### (2) 教材について(指導過程にかかわって)

- 「夢の世界を」  
2学年のオリエンテーションではじめて歌った。合唱はさせず、力を抜いて歌わせるための導入の曲。
- 「翼をください」  
小学生のときにも歌っているこの曲は、ポピュラーのリズムに乗り、楽しく歌わせたいので、教科書の編曲ではなく4小節目のリズムを3連譜のリズムのもので歌っている。
- 「夏の思い出」  
歌詞の意味とゆったりしたメロディーを、無理のない発声で歌わせたい。情景を思い浮かべながら歌うこと、曲の間の感じ方を意識させている。
- 「浜辺の歌」  
日本歌曲の詞の味わい、音階を感じながら歌わせたい。また、音の跳躍があるため、歌唱技能のためにも歌わせている。
- 「サンタ ルチア」  
原語で歌わせている。カンツォーネ独特の節回しや、イタリア語ディクションによる子音・母音の歌い方を意識させている。
- 「君に伝えたい」  
2003年に発表された新作。平成16年度NHK学校音楽コンクールで自由曲として歌った。歌詞の内容とメロディーの美しさが生徒をひきつけている。
- 「大地讃頌」  
本校では、昨年度から全校合唱として取り上げている。職員合唱やPTA合唱でも歌っているため、これから伝統として歌い継いでいきたい。
- 「歓喜の歌(交響曲第九番「合唱付き」から)」  
第九の演奏会は年末の恒例となっている。生涯音楽学習の取り組みとしても有名なこの旋律を教科書ではA-durに編曲して掲載されている。

## 6 指導の工夫

- 「社会と音・音楽」では、日常生活の中の音や音楽に気付かせるために、まずイントロクイズのような楽しさを交えて日常生活のどの場面で聞いたことがあるかを連想させる。その後、日本の音にも着目させ、各季節の音を聞かせる。最後はボリュームを下げていき、音楽室の周りの川や小鳥の鳴く音にも気付かせる。
- 「様々な場面や恒例の音楽」では、体育祭で使われた音楽や儀式で使われる音楽を鑑賞し、曲の意図と場面とのギャップや背景を生かした選曲など、新たに気付かせる。
- 「混声合唱の響き」においては、個人の歌唱活動から数人によるパート練習の過程の中で、音程や姿勢に気を付けるよう個人・少人数指導を中心に行う。全員で合わせるときには、全体のバランスや雰囲気を感じ取れるように指導をしていく。
- また、RCCに参加した際には、ホールの響きやオーケストラの楽器とその音の響きや重なり、ソリストの歌う姿と声をしっかりと体験させたい。また本番だけではなく、練習やリハーサルにおいて、指揮者と演奏者の楽曲に取組む過程を体験させたい。

## 7 指導計画(6時間+特別活動)

### 第一次(2時間)

- ・身の回りの音・音楽の特質・特徴を感じ取らせる。
- ・様々な場面に使われている音楽や恒例の音楽から、新たな気付きを実感させる。

### 第二次(4時間)

- ・「交響曲第九番合唱付き第4楽章」の抜粋「歓喜の歌」を混声合唱し、その響きを味わわせる。

### 特別活動

- 文化祭において「交響曲第九番合唱付き第4楽章」を全校合唱させ、豊かな響きを実感させる。
- RCC主催「第20回 第九ひろしま2004」に参加し、合唱させる。

## 8 評価計画

### 評価規準

- ア 社会と音や音楽との結び付きに関心をもち、意欲的に音楽活動に取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)  
 イ 歌詞の内容や曲想を感じ取り、イメージを拡げながら、声の表現方法や発声法を工夫している。(音楽的な感受や表現の工夫)  
 ウ 混声合唱の響きを知覚し、そのよさを感じ取りながら、楽曲にふさわしい歌い方の技能を身に付けている。(表現の技能)

### 評価方法

- ア 教師による授業分析  
 a.録音 b.録画 c.行動の観察 d.表情や態度の観察  
 イ 学習者による授業分析  
 a.自己評価シートの記入(3段階評定尺度法・自由記述内容) b.感想・アドバイス

### 題材の評価規準

#### ア 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
評価規準	社会と音や音楽の結び付きに関心をもち、意欲的に音楽活動に取り組もうとしている。	歌詞の内容や曲想を感じ取り、イメージを拡げながら、声の表現方法や発声法を工夫している。	混声合唱の響きを知覚し、そのよさを感じ取りながら、楽曲にふさわしい歌い方の技能を身に付けている。
目標設定	社会の音・音楽に関心をもち、その背景となる文化などかかわらせて意欲的に活動に取り組もうとしている。 地域、時代の音楽に関心をもち、その背景となる文化や歴史とかわらせて意欲的に鑑賞しようとしている。	拍子や強弱、曲想などを感じ取り、合唱の響きを工夫している。 旋律や曲想による発声や特徴を感じ取り、曲にふさわしい歌い方を工夫している。	声域に合った発声の仕方を身に付けている。 他のパートとの調和を生かしながら合唱している。 姿勢・呼吸・共鳴に気を付けて歌っている。

#### イ 具体的評価規準におけるCと判断される状況への働きかけ

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
働きかけ	サビの部分やテレビのCM等、一度は見聞きしたことがある曲から一緒に連想ゲームのように引き出す。 声かけをしながら、場面によっては個人指導を行う。	実際に授業者が声の模倣をしながら、気付いたことを挙げさせる。 個人指導をする。 友達やパートリーダーから助言してもらったり、個人指導を行ったりする。	パート練習時に少人数指導や個人指導を行う。 全体練習やパート練習時に声かけや個人指導を行う。 友達同士の声かけや個人指導を行う。

#### ウ 具体的評価規準におけるAと判断するキーワード

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
キーワード	文化や背景に関する気付き発言。 進んで声を発声しているなど積極的な反応。	自分の声をしっかり聴きながらの歌い方の工夫(繰り返し練習)。 パート内での建設的な提案・まとめの行為	全体のバランスを聴きながらの響きのある発声。 表情や身体的な機能を生かした歌唱。

9 指導と評価の計画(全6時間)

次	ねらいとテーマ	主な学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準	評価方法
第一次(2時間)	身の回りの音・音楽の特質・特徴を感じ取る。 	既習曲を歌う。 イントロクイズをする。  環境音や自然音を聴く。 ・詩や俳句を音読する。 ・詩や俳句の音読にふさわしい音や音楽を探す。 ・音や音楽をBGMとした音読とそうでない音読を行う。	歌唱態度や状況を確認させる。 音楽学習の楽しさの雰囲気をつくる。 新しい気付きを見付けさせる。 詩や俳句に合う音や音楽を選び、それをBGMにして読ませ、語感を感じ取りながら、心に余韻をもたせる。 環境音のボリュームを徐々に下げ、そのまま無音にすることを試みる 異なる感覚に気付かせる。	ア-	ア-c d イ-a
	様々な場面に使われている音楽や恒例の音楽から、新たな気付きを実感する。 	既習曲を歌う。 体育祭で使われた曲の意味当てクイズをする。 各曲を鑑賞する。 ・結婚行進曲 ・越天楽 ・「第九 四楽章」 ・「新世界第二楽章」 ・惑星から「木星」 ・威風堂々 ・パリの喜び ・コッペリアから「ワルツ」 など	歌唱態度や状況を確認させる。 音楽学習の楽しさの雰囲気をつくる。 音楽効果や意外な組み合わせを生徒の意見から吸い上げる。 聴取し、感じた印象や想起した経験を話し合わせるようにする。	ア-	ア-c d イ-a b
第二次(4時間)	「交響曲第九番 合唱付き第4楽章」の抜粋「歓喜の歌」を混声合唱し、その響きを味わわせる。 	既習曲を歌う 「交響曲第九番 合唱付き第4楽章」(抜粋)を鑑賞する。 「歓喜の歌」をドイツ語で斉唱する。 パート練習(発音)  パート練習(旋律の方向)	歌唱態度や状況を確認させる。 「歓喜の歌」の旋律に気付かせる。  ドイツ語のディクションをリズム読みから行う。 正しい発音に気を付けさせながら、ゆっくり繰り返し練習させるようにする。 楽譜に注視しながら、正しい音程でなくても上行と下行に気付かせる。	ウ--  ウ-	ア-c  ア-acd イ-a
		既習曲を歌う 全体練習(発音) パート練習(発音) パート練習(音程)	歌唱態度や状況を確認させる。  パート別音源を繰り返して聴取しながら、練習させる。 パートの音程を取り、調はA-durのものを使う。	イ-	ア-acd イ-a b
		既習曲を歌う 全体練習(発音) 合唱練習 パート練習(音程) 2声の練習(女声) 2声の練習(男声) 全体練習(全パート)	歌唱態度や状況を確認させる。  パート練習をした後、進捗状況にあわせて二声ずつ合わせる。 全パートを合わせるときは細部にこだわらず、できるところまでを行う。	イ-	ア-acd イ-a b
		既習曲を歌う パート練習(全体について) 全体練習(女声・男声) 全体練習(全パート)	歌唱態度や状況を確認させる。  録音し、それを聴取しながら、表現を練り上げる。 全パートを合わせるときは、部分を丁寧に合唱させることにより、四声の響きを実感させる。	ウ-	ア-abcd イ-a b

10 本時の学習 (第二次 第3時)

本時の目標 「混声合唱の響きを味わう。」

本時の評価規準 イ-

学習指導の展開

学習内容と主な学習活動	指導上の留意点( 学習活動における具体的評価規準) ( 評価方法)
<p>1 学習の雰囲気をつくる(5分) 始業1分前から2分間黙想 号令・出席確認 今日の活動内容と目標を確認する。</p>	<p>黙想時には、ピアノを演奏し、落ち着いた雰囲気にする。 活動の流れと目標を掲示し、目視によって確認させる。</p>
<p>「歓喜の歌」の混声四部合唱に挑戦しよう!</p>	
<p>2 活動 既習曲を歌う(15分) 「夢の世界を」「翼をください」「夏の思い出」「浜辺の歌」「サンタ ルチア」「大地讃頌」「君に伝えたい」</p> <p>3 活動 合唱練習を行う(25分) 全体で歌詞読みをする。 パート別に集まり、パートリーダーが指示を出す。 教師の指導による活動は、ピアノの周りでS-B-T-Aの順で交代する。 ・パートの練習は、「歓喜の歌」を5回歌うことを目標にする。 ・1回歌うごとに自己評価シートに記入する。</p> <p>・最初に女声からあわせる。 (男声はパート練習) ・男声があわせる。 (女声はパート練習)</p> <p>混声四部合唱ができる箇所まで全体であわせる。</p> <p>4 自己評価シートに記入する(3分)</p> <p>5 次時の学習を確認する(2分)</p>	<p>教師の表情や指揮、短い言葉かけによって、表現をうながすようにし、流れを止めないようにする。</p> <p>ドイツ語のディクッションに気をつけながらも、歌う雰囲気を損なわないように声かけをする。 パート練習前にはパートリーダーに指示を出す。 自己評価シートは、パートリーダーに渡す。 Sは、メロディーを担う大切な役割であること、Aには、和音構成上の重要な音であることを認識させる。 Bは、根音や楽曲全体を支える役割を意識させる。 Tは、音程に気をつけながら、のびのびと歌うことに集中させる。 各旋律を聞きながら、その音程に気を付けて、歌っているか。( イ- )( ア-c,イ-a b)</p> <p>細部にこだわらず、響きを味わわせる。心に余韻をもって終わらせる。</p> <p>感想をシートに記入させる。</p> <p>確認の際に、全校練習が来週から始まることを告げ、文化祭へ向けてのクラスにおける意識を高める。</p>

【具体的評価規準におけるCと判断される状況への働きかけ】

- イ- 友達やパートリーダーから助言を得させたり、個人指導を行ったりする。  
全体練習やパート練習時に声かけや個人指導を行う。

【具体的評価規準におけるAと判断するキーワード】

- イ- パート内での提案やまとめの言動。  
正しい音程。  
ブレスとフレーズの関係への気付きの発言。

## 11 題材の考察

### (1) 実践により明らかになった成果と課題

#### 成果

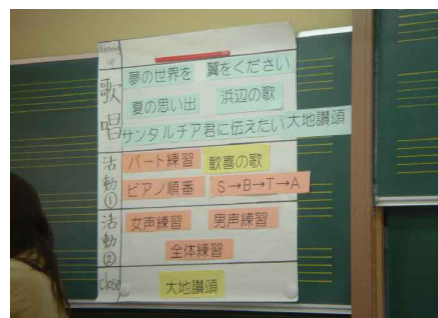
授業の型を決め、黒板に掲示しているため、生徒自身が自然に活動内容を把握しながら動くことができた。

活動では、教師の指示を一切せず、音楽を流して曲想や歌唱技術の確認に集中させることができたため、雰囲気づくりとしての効果も大きかった。

活動では、パート別活動を尊重し、順にピアノのまわりでパート練習をしながら指導者は少人数指導を可能にできた。

パート練習時には、自己評価シートを持ち、1回歌うごとに記入させた(別紙図1参照)。このことで、パート内での活動内容の明確化と、個人内の課題の意識化を促すことができた。

評価については、パートの入れ替わり時や全体練習などの場面で、評価補助表(別紙図2参照)を記入しながら指導をしていくことにより、活動終盤に評価する観点が指導者側にとって明確になった。また、Cと判断した生徒には、次時に次のような手立てを行い、おおむね改善がみられた。



活動内容の掲示

	Cと判断した状況	手立て	結果	評価
37	励ましたが、殆ど声を出さなかった。	個別にゆっくりとやさしい声で練習した。大きな声でなく、そのままよいことを伝える。	自信がみえてきた。声は小さいがきれい。音程は確かに近づく。	B
1	自信がなさそう。声は殆ど出せていないが、友達の前は楽しそうに見ている。	友達を模倣して、歌うよう指導。個別指導では、部分を指導し、音程が取れるきっかけを与えた。	OK, しかし、まだ少し不安定。	B
28	歌おうとしないが、表情は真剣。	励まし。一緒に音源を聴取しながら言葉かけをし、曲想について話し合った。	引き続き、手立てが必要。	C

#### 課題

「bravo(ブラボ)」という評価をしている。これは、授業中に行った様々な活動のなかで指導者から評価された際に生徒に発せられるもので、授業後に生徒の自己申告で表に記入していく。生徒はこのことを意識しながら授業に臨んでいる。

評価の観点としては、「関心・意欲・態度」で評価しているが、時には「感受」「技能」と重なる場面もあり改善の必要性を感じている。

A評価をする際、「具体的評価規準におけるAと判断するキーワード」を設定していたが、実際の授業では様々な反応や様子が見られた。事前に予想して準備をしておくことは必要だが、もう少しB規準の幅を広くし、Aと判断する規準を指導者側が明確にかつ柔軟に対応できるようにもっと吟味しておくことが大切であった。



評価表(チェックをつけていく)



授業後に生徒が自己申告をしている様子

### (2) 考察

一題材の中で一つの活動にとどまらず、様々な活動を取り入れることは、先行研究・事例にあるように、生徒にとってとても有意義であると考え。特に音楽学習は、一つの学習の中にも様々な観点や活動が関わっており、切り離して考えることが困難な面もある。また一つの活動の中にも様々な形態を組み合わせることで、新たな可能性が広がり、生徒の学習意欲が高まる。

例えば、今回の事例では個人教授が有効な技能習得の場面で、一斉授業の限界を感じ、パート練習と少人数指導を組み合わせることで少しでも個人教授に近い形を模索している。

また、生涯音楽学習の時代を迎え、生徒に生涯音楽活動を楽しんでいけるような体験をさせたいという思いから、本題材の最終次に社会で行われている実際のイベントに参加することを位置づけている。中学生は、自分の生活の周りの音楽と、学校で扱う音楽との隔たりを強く感じているため、本題材を取り扱うことは、意義あることだったと考える。しかし、予算の問題や時間数の限界もあり、実行してためには学校の組織としての協力体制も必要である。音楽科教員には、社会と学校、生徒と学校側のパイプ役としての「コーディネーター」の力量も求められてくる。そのことも痛感させられた題材であった。

まだまだ経験が浅いため、今後の見通しを立てた活動計画を練っていくことに大変時間と労力を使う日々である。しかし、自分自身の音楽活動の糧となったものは自身の中学校時代の音楽の授業で体験したことである。生徒の視点を忘れずに、今後も新たな授業展開を試案していかなければならない。

図1 自己評価カード

パート練習 自己評価シート

年 番 氏名( )

今日の自己評価をしましょう。(A・・・よくできた B・・・できた C・・・努力したい)

「歓喜の歌」を歌う

	気をつけること	自己評価	新しい気づきや感想
1回目	良い姿勢で歌った		
	パート練習に協力した		
	音程に気をつけながら歌った		
2回目	良い姿勢で歌った		
	パート練習に協力した		
	音程に気をつけながら歌った		
3回目	良い姿勢で歌った		先生からのコメント
	パート練習に協力した		
	音程に気をつけながら歌った		
4回目	良い姿勢で歌った		
	パート練習に協力した		
	音程に気をつけながら歌った		
5回目	良い姿勢で歌った		
	パート練習に協力した		
	音程に気をつけながら歌った		

「大地讃頌」を歌う

	気をつけること	自己評価	新しい気づきや感想	
1回目	良い姿勢で歌った			
	パート練習に協力した			
2回目	良い姿勢で歌った			
	パート練習に協力した			
3回目	良い姿勢で歌った			先生からのコメント
	パート練習に協力した			

「歓喜の歌」をはじめて混声四部合唱で歌った感想  
( )

今日の総合評価・・・[ ]

図2 評価の実際 (第二次 第3時)

音楽科評価補助表(音楽室)

クラス	第2学年 38人	指導者名	
日時	10月14日(木) 5時間目	出席者	36名 欠席者 2名

評価の具体

題材名	「知っていて知らない音・音楽」	次・時	第二次 第3時
本時のねらい	混声合唱の響きを味わう。		
評価場面	活動	評価方法	行動観察
評価規準	イ - 旋律や曲想による発声や特徴を感じ取り、曲にふさわしい歌い方を工夫している。		
状況の 具体の	A	積極的に練習し、パートの音程を正しく歌いながら、友達に気付きを与えている。	
	B	積極的に練習し、パートの音程に気をつけながら歌っている。	
	C	歌唱や練習に積極的ではなく、パートの音程が不安定である。	
指導の工夫	少人数指導・個人指導		
Cへの手立て	励まし、個別的繰り返し練習		

音楽室

黒板

piano

ソプラノ			アルト			テノール			バス		
no.	評価	教師の気付き	no.	評価	教師の気付き	no.	評価	教師の気付き	no.	評価	教師の気付き
3	B	ブレス浅い	1	C	声出さず下向き	4	A	表情と工夫あり	2	B	やや元気なし
6	B	頭声難	10	A	音程完璧!	5	A	音程完璧!	8	B	前向き
7	A	まとめの意見	16	A	よい。暗譜。	19		欠席	13	B	意欲出てきた
9	A	工夫あり	17	A	よい。まとめ。	23	A	意欲的な意見	14	B	O.K.
11	A	リリックな声	20	A	よい。暗譜。	25	B	前より前進	15	B	集中力欠ける
12	A	意欲的	24	B	O.K.	30	B	意欲出てきた	26	A	パートのまとめ
21	B	O.K.	27	B	表情あり	31	B	O.K.	28	C	口を開けず
22	A	意欲的	36	B	O.K.	34	B	発音に意欲的	29	B	協力的
37	C	声出せず	38	B	姿勢よい	35	B	協力できた	32	B	良い表情
						39		欠席	33	B	協力的